

旅行博覧会で自治体の観光情報を P R ～北京国際旅遊博覧会 (BITE2013) にクリアブースを出展しました～

北京事務所

2013 年 6 月 21 日～23 日、北京市において中国国内の大規模旅行博「2013 北京国際旅遊博覧会 (BITE2013)」が開催されました。世界の 81 の国と地域から旅行・観光関連の企業や団体 887 団体が出展し、来場者は業界関係者と一般来場者を合わせ 15 万人以上にのぼりました。

クリア北京事務所は、ジャパンパビリオン内に福島県、茨城県、横浜市、山梨県、兵庫県、佐賀県と共同で「日本各地展」を出展し、中国の旅行者や消費者に日本各地の観光 P R を行いました。共同出展自治体以外からも日本全国からパンフレット、ポスター、DVD 等の提供があり、会期中に 1 万部を超えるパンフレット等を配布しました。

中国人の訪日旅行者数の動向

訪日外国人旅行者数は、2003 年のビジットジャパンキャンペーン開始以降、年々大幅に増加し、世界金融危機による景気低迷により一時的な減少はあったものの、2010 年には過去最高の 816 万人を記録しました。中国人旅行者数も同じく増加傾向にありましたが、2011 年の東日本大震災の影響による旅行者数の落ち込み、各方面の迅速な風評被害対策による回復、2012 年の領土問題による日中関係悪化を原因とする落ち込みと、近年は旅行者数の乱高下が激しくなっています。それでも 2012 年の国・地域別訪日客数は、中国は韓国、台湾に次ぐ 143 万人でした。団体旅行者数は減少している一方、個人旅行者数は増加傾向にあり、政経分離による経済交流推進の動きも見られることから、今後も中国からの旅行者が増加する可能性は十分にあると思われます。

業界関係者・消費者の日本に対する反応

会期中多くの方にクリアブースを訪れていただいたため、日本への旅行に関するアンケート調査を実施し、業界関係者 99 名、消費者 198 名から回答を得ることができました。



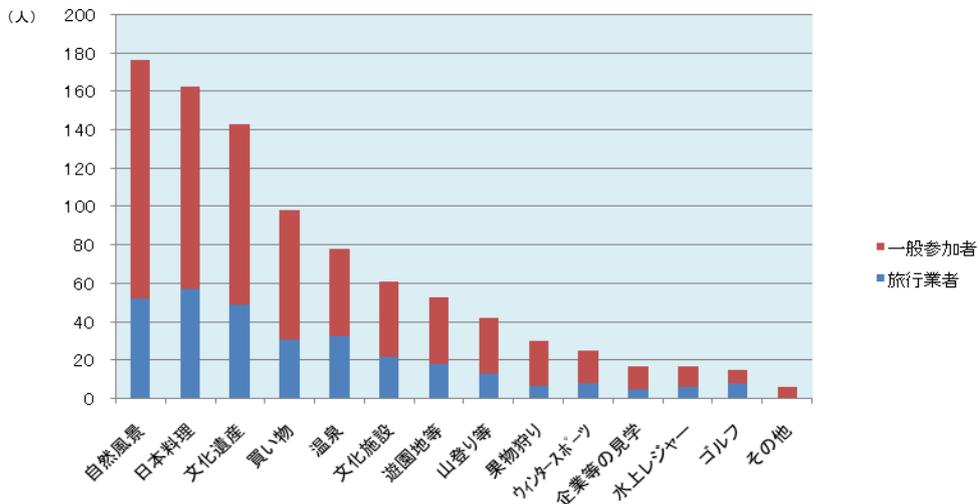
来場者で賑わうクリアブース



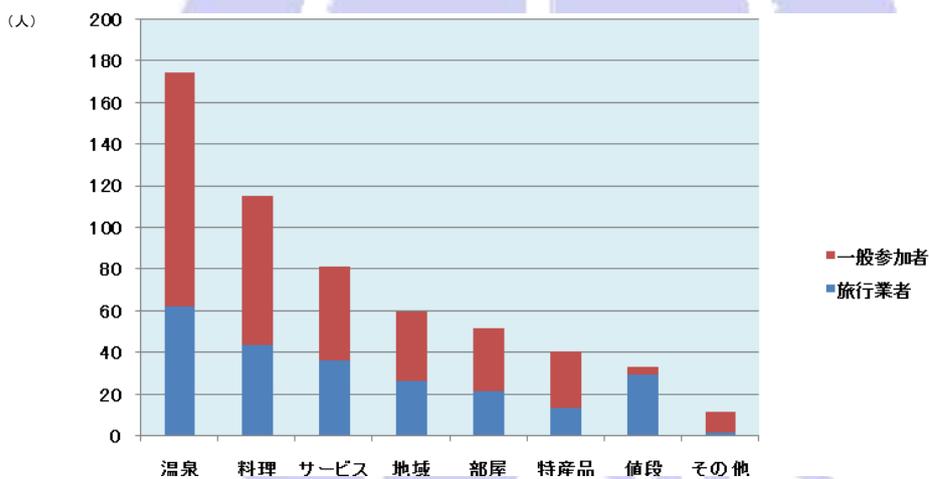
アンケートに回答する来場者

いくつかの質問事項と結果を以下に紹介します。

Q：日本へ旅行に行ったときに何を最も体験したいですか？（複数回答可）



Q：日本で宿泊場所を選ぶとき、何を重視しますか？（複数回答可）

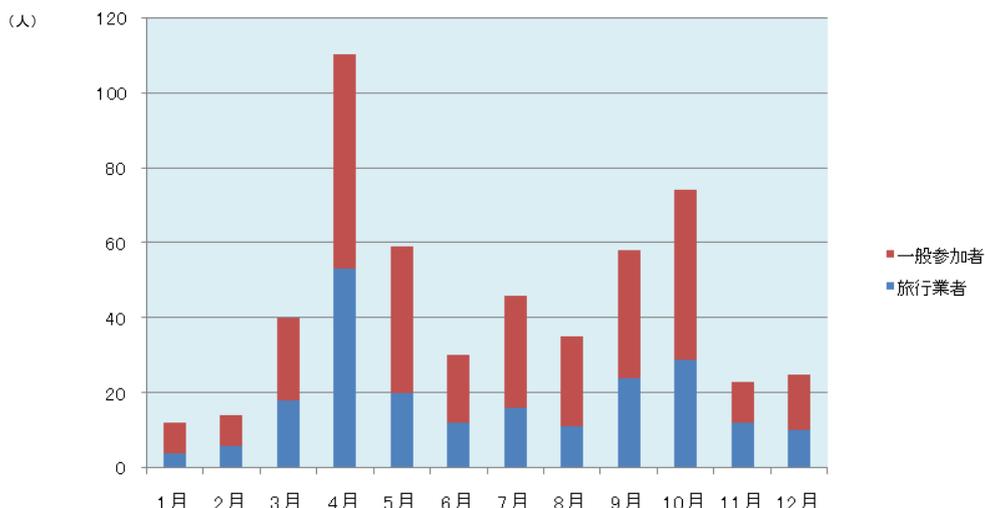


限られた回答数ではありますが、この2つの質問により、中国の方は日本の自然風景や文化遺産を見学してみたく、宿泊先には温泉と日本料理、日本式のおもてなしサービスを期待していることが見えてきます。

現在中国人旅行者の行き先は、東京・大阪・京都を巡る、いわゆるゴールデンルートが中心となっていますが、自然風景、温泉、日本料理、サービスは日本の多くの地域でも提供することができます。

消費者の回答者のうち 32%は来日経験のある方でしたが、この方たちが日本の観光地について積極的に質問される姿も見られました。ゴールデンルート以外の地名を口にする方も多くいたため、今後各自治体はこのようなりピーターを取り込める可能性があるのではないかと感じました。

Q：日本への旅行時期は何月が適していると思いますか？（複数回答可）



中国人の訪日旅行の繁盛期は、春節（1～2月）、桜シーズン（3～4月）、夏季休暇（7～8月）、国慶節（10月上旬）とされていますが、今回のアンケートでは多くの方が4月が適していると回答しました。

実際に「桜の季節はいつか。」「桜が見たいのだがどこに行けばよいか。」「このポスターの桜はどこか。」という質問を多くの方から受けました。

また、日本の47都道府県名の認知度を問う質問では、知名度の高い順に北海道、東京、大阪、京都、沖縄、福島、長崎、広島、福岡、宮崎（上位10都道府県）という結果でした。

これは概ね順当な結果と言えますが、都道府県名以外でも全国の地方都市の名前を知っている方も複数人いたことには驚かされました。

このように、クレープスを訪れる方の反応を見ると、日本に対し好印象を持っている人が多く、特に日本に本当に興味がある個人旅行者にとっては、最近の微妙的な日中関係は旅行先の選択にあまり影響を及ぼしていないのではないかと感じました。

今後さらに中国人旅行者を呼び込むための課題

一方、今回のアンケートから、誘客への課題も見えてきます。

業界関係者に対し「日本への旅行客を増加させるために、障害となるものは何かありますか。」「日本への旅行を企画するとき、日本の自治体にどのような協力を望みますか。」という質問に自由に記入していただいたところ、障害としては、「ビザの発給条件が厳しい、手続きが煩雑」、「日中関係」、「言葉の問題」という回答が多く、自治体への協力については、「ビザ発給条件の緩和、手続きの簡素化」、「交通の案内」という回答が多いという結果でした。

やはりこれまでのような団体旅行を企画するには、今の両国間の状況では厳しいという

のが現状のようです。

また、言葉の問題については、個人旅行者にとっての障害となっていると思われます。

消費者の中にも言葉の不安を口にしていた方がいましたが、中国の方から見て、日本の空港や駅、観光地や宿泊地では中国語の案内が十分とはいえないようです。自治体への希望で「交通の案内」という回答があったのも、中国語表記を増やしてほしいという意味も込められていると思われます。

そして、業界関係者が多く回答した「ビザの取得」については、多くの消費者も「日本には行きたいがビザが取れない」、「私はビザが取得できるだろうか」と話していたように、現在個人旅行者にとって最大のネックとなっているようです。

個人観光ビザの発給が開始された 2009 年以降、発給要件の緩和もあり、富裕層を中心に発給件数は年々増加しています。しかし、発給には一定の経済力が有ることが条件となっていることから、中間層にとってはまだ条件が厳しいと感じている方が多いようです。

ビザ発給は自治体の所管業務ではありませんが、このアンケートの回答から旅行業者が日本への旅行者をさらに増やすために何とかしてほしいという思いが見えてきました。

おわりに

今回の旅行博覧会に出展して一番に感じたことは、日本に興味を持ち旅行に行きたいと思っている方は非常に多く、そして、個人旅行が増えている今、日本への旅行に対する考え方に多様性があるということです。

アンケート結果からも、多くのお金を費やして長期の旅行をしたい方、なるべく安く短期間で回りたい方、最初はやはり東京、富士山、京都、大阪を見たいという方、ゴールデンルートは既に見たので今度は違う地方に行ってみたい方、文化遺産や桜など特定のものを見たい方、買い物がしたい方、温泉やおいしい日本料理を体験してみたい方、日本のお祭りを見たい方など、様々な考えがあるということが見えてきました。

これまでの団体旅行から個人旅行が増えているという状況は、全国の自治体にとってチャンスが広がってきたともいえます。

各自治体が中国人観光客を誘致するためには、中国人旅行者の現状を把握して、ターゲットを絞った誘客をすることも重要かもしれません。ターゲットを富裕層にするのか中間層にするのか、初めて日本に来る方かリピーターか、それによって戦略も異なってきます。

様々なニーズを持つ中国人旅行者、そしてそれぞれ異なる強みを持つ各自治体。両者がマッチする点は必ずあると思われます。

既に日本の自治体でもビザが不要な修学旅行生の誘致や医療観光の誘致に力をいれている例もありますが、今後は各自治体の地域の事情に応じた独自の取り組みが必要となってきます。

今回のような旅行博覧会への出展は、自治体の観光情報 PR とともに、中国人訪日旅行の動向を把握できるという点で、意味のあることと思います。

クリア北京事務所では今後も自治体の PR 活動のサポートや各種情報の提供に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、今回の博覧会出展にあたり、当事務所にパンフレット等を提供いただいた自治体の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



盛り上がりを見せる JNTO のステージイベント



全国の自治体から多くのパンフレット等を提供いただきました

(中川所長補佐 新潟県派遣)

